

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも「百姓宣言」

「この国の食と農を守るため」 【地元、熊本の熱い声に伝える】

5月22日に県立劇場で開催されました総決起集会におきましては、休日の大変お忙しいなか県内JA・連合会の役員、青壮年部、女性部、生産部会の皆さまなど、1000名を超える多くの方々にお集まりいただきましたこと改めて感謝申し上げます。

直近の世界情勢による資材費等の物価が高騰し、国民の食料への関心が高まってきています。この状況を追い風と捉え、再生産可能な価格形成の仕組みを構築し農家所得を安定的に確保する農政を築き上げることが重要です。国が責任を持つて国民への食料安定供給を確保するものにすべく、私も一生懸命取り組みます。地元、熊本県の皆さまの声こそ私の力の源です。今後ともご指導のほど宜しくお願いいたします。

【食料安全保障宣言まとめ】

2月に創設され、私もメンバーに所属している自民党の食料安全保障に関する検討委員会において議論を進めてきた「食料安全保障の強化に向けた中間とりまとめ」が5月19日に了承されました。

提言では従来の農林水産関係予算とTPP対策予算とは別に食料安全保障予算を確保することや、中小家族農業

への支援の強化と持続可能な農家経営を実現するための再生産可能な価格形成が図られるように、担い手支援に偏重しているなど課題のある「食料・農業・農村基本法」の見直し、肥料価格高騰対策の創設など、私が当選当初からずっと訴え続けてきたことが今回の中間とりまとめに盛り込まれました。

本格的な議論は参院選後に見込まれる経済対策や補正予算での具体化が行われるところです。私が強く訴え続けてきた中小家族農業への支援強化を含む食料安全保障の強化が、ようやく国家の最重要政策として取り上げられるようになりました。国民への良質・安定的な食料供給。そして、子どもたちの豊かな未来のためにも食料安全保障の強化を必ず実現させなくてはなりません。今秋から議論が本格化されますが、数十年先を見据えた万全な食料安全保障政策の確立・具体化を目指してまいります。



▲総決起集会にて決意表明

全国・県農政連推薦
参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

「食」を「農」を、 そして「地域」を、 「国」の在り方をしっかり 考えましよう

【新設の「食料安全保障に関する 検討委員会」で貴重な意見交換】

自民党で新しく設立された「食料安全保障に関する検討委員会」で、4月7日に新山先生(前立命館大学教授)と安藤先生(東京大学教授)の二人方を交えて、貴重な意見交換がなされました(なお、私は当委員会の副委員長に就任しました)。

新山先生は、「地域圏のフードシステムを作るのが求められる」とされたうえで、日本は会社化や規制改革による競争力の強化に傾斜していることを懸念されており、むしろ規制改革による影響で協同の意識が小さくなっていることを危惧されていました。

安藤先生は、「食糧政策の確立が求められており、そのために農村に力を与えるみどり戦略などの理念や政策が必要で、今こそ農業・農村地域の評価を高める農協の役割の評価をきちんと行うことが大切」とし、現在進んでいる生産調整の廃止の動きは、農村地域の弱体化を産み、コメに代

わる対策が欠ける中では日本の地域農業は壊れるとされました。

この両先生を交えての会合で取り上げられた課題は、当然簡単に整理できることではないですが、歴史の中で、為政者も、政治家も、学者も、そして農業者も、一人一人の人間と家族が生きていくなかで遭遇してきたことだと思えます。「何が大切なのか」、それを根底において日々の生活や、社会や、経済や、そして国の在り方を考えようではありませんか。「そんな悠長なことを言っている余裕はないぞ」と言われそうですが、農業のこと、食のこと、地域のこと、我が国の先々の在り方のことを、しっかり考え主張していきましよう。



▲令和4年度全青協新執行部と面会